地域間交流 軌道に

群馬・近隣県20社 経産省と意見交換

車産業100年後見すえ交流

群馬産業人クラブ（有田喜一会長＝群栄化学工業社長）は、１９６４年（昭39）の「工業人クラブ」発足から数えて14年度に50周年を迎える。県内産業の特徴を色濃く反映し、金型や金属加工、樹脂成形、自動車部品大手など幅広い製造業42社が名を連ねる。国の経済政策などで足元の景況は上向いている。会員各社は確実な実需に結びつけるための経営のヒントを得ようと、クラブ活動を有効活用している。

■政策は転換点

富士重工業が国内唯一の乗用車工場を置く群馬県太田市。この企業城下町で5月、群馬県と栃木県、それに埼玉県の自動車関連企業20社が集まり、経済産業省と非公開の会合を開いた。自動車業界の１００年後の姿を見すえた「自動車産業ビジョン意見交換会」。経産省製造産業局自動車課の中山文博企画調整係長は「国の政策は転換点にあり、現場とずれが生じないように生の声を反映したい」と開催の狙いを語る。金型やプレス、情報技術など北関東圏は自動車産業の集積地だ。中小企業の厳しい原価低減の実情や、事業環境で悩みを抱える中で成長を目指す企業の生の意見を交わすのが狙いだった。

■相次ぎ提案

中山係長は車産業の歴史を技術や規制・制度面などから振り返り、参加者から質問や要望を受けながら議論した。参加企業らは「自動車関係諸税の大幅見直し」や「コスト削減の連続で疲弊している。持ち株会社の下に中核技術を持った複数の中小企業が入る仕組みが必要では」といった企業連携網の整備など多様な考えや意見を相次いで提案した。

その中で、中山係長は特殊な技術や製品で世界規模の優位性を保つグローバルニッチトップ（GNT）企業を育てる機関創設などにも言及した。会員企業であるカーエアコン用コンプレッサー製造のサンデンを例に「自動車メーカーの系列に属さず、地元への強いこだわりを持ちながらグローバルで高シェアを握っている」と紹介。「中小企業は地域の雇用、経済を支えている。国内の生産基盤を守るという意味でも競争力を高める支援を政策に反映したい」と意気込んだ。大企業一辺倒でなく、中小・零細企業の声を反映して意味ある政策にしようと両者の熱のこもった意見が盛んに出た。

■事例を学ぶ

企業の90％以上を中小企業が占める日本。群馬でも全国の先進企業を参考にして自社の経営に生かそうという活動が盛んだ。その一つが現場視察と勉強会を中心とした「先端企業技術見学会」だ。前橋市の補助金を活用しながら県外の成長企業を訪問している。13年3月には前橋市の異業種規模の優位性を保つグローバルニッチトップ（GNT）企業を育てる機関創設などにも言及した。会員企業であるカーエアコン用コンプレッサー製造のサンデンを例に「自動車メーカーの系列に属さず、地元への強いこだわりを持ちながらグローバルで高シェアを握っている」と紹介。「中小企業は地域の雇用、経済を支えている。国内の生産基盤を守るという意味でも競争力を高める支援を政策に反映したい」と意気込んだ。大企業一辺倒でなく、中小・零細企業の声を反映して意味ある政策にしようと両者の熱のこもった意見が盛んに出た。

■一貫工程見学

初日はタンガロイの新工場棟を見学した。同社には米著名投資家のウォーレン・バフェット氏がオランダのＩＭＣグループを通じて間接出資する。刃先交換チップ（インサート）の材料となる希少金属のタングステンやコバルトなどを焼き固める焼結工程から研削、表面処理など効率の高い一貫工程を視察した。親会社はイスラエルの切削工具会社のイスカルなどを傘下に置き、グループ全体の自動化ノウハウなどを生産ラインの至る所に活用している。担当者は「親会社の先行技術をタンガロイの力でさらに改良を加えて生産技術を確立したい」と普段は立ち入りできない工場内を見学しながら丁寧に事業概要を解説した。

先端企業技術見学会
（タンガロイの工場）

世界競争に勝つヒント 「シェアトップ」にあり

■改良が市場生む

2日目に訪れた東洋システムは、すき間市場で存在感をみせる企業として群馬の会員各社にとっても生きた教材となった。二次電池の検査装置メーカーとして、機種によって5―8割の高シェアを握る。例えば、日本のエコカー市場で市民権を得たハイブリッド車。車載電池が高機能化すれば、商品全体の魅力に直結するため検査装置の需要が急増している。

主な顧客は自動車や電池、材料メーカーなど多彩な顔ぶれが並ぶ。追い風が吹く中、生産現場は組立作業で忙しい。一方、大手企業が採算が合わずに作らない小ロットの電池本体の受託製造などすき間を突く戦略は明快だ。永島彰彦総務部長は「電池の改良で商品全体の機能がより改善し、新しい市場が生まれる」とし、稼働時間を伸ばしたい介護用ロボット向けなど新規需要の取り込みに力を入れている。13年中には本社隣に新本社を建設するなど積極投資で成長を加速する。ニーズに寄り添って着実に成果を生み出す企業の姿に、参加者も熱心にメモをとった。期間中、視察団は津波被害が激しかった薄磯地区を訪れた。同地区の犠牲者は市全体の3分の1以上を占めたという。関東精機の鮏澤恭一社長は「震災から2年たった今でも復興は道半ば。爪痕の残る様子がまじまじと垣間見られた」とふり返った。

群馬産業人クラブは4月に活動49年目に入った。7月の定時総会は、足元の円高是正や株高で景気の高揚感が漂う中での開催となった。それでも、有田会長は「一喜一憂せずに愚直にモノづくりに励んでいこう」と強く会員各社に呼びかけた。近年では周辺県の異業種グループとの交流が軌道に乗っているほか、さらなる拡大を模索している。群馬では13年から進めるため準備を進めている。次の50年を見すえ、群馬産業人クラブの奇心に応える活動を一層　第二章が始まる。

群馬産業人クラブ

概　要

◇１９６４年４月13日設立　会員数４４人
◇事務局所在地 ＝ 前橋市表町１の24の１
（日刊工業新聞社群馬支局内）
◇電話 ＝ ０２７・２２３・３１８７

特集・挑戦する日本の経営者たち

会長インタビュー

ビジネスチャンス拡大・創出

有田 喜一 氏
（群栄化学工業社長）

―２０１４年度に発足から50周年を迎えます。

「これまでも常に次世代をにらみながら、変革する時流に応じた情報提供と会員間・地域間の交流を促す多様な事業を推進してきました。定期開催する講演会は、経営者や後継者が興味や関心を持つ経営や技術、政策、経済などがテーマです。12―13年は世界的な自動車部品大手の幹部を招いた講演会や新車開発の最前線の技術者を招いた技術説明会、現場視察に重点を置いた先端企業技術見学会を福島県で開くなど幅広い活動を実施しました」

「地域間交流にも力を入れており、昨年は栃木産業人クラブとの親睦ゴルフ大会を開きました。13年は新機軸のシンポジウムを計画し、積極的にビジネスチャンスの拡大、創出に取り組んでいきたいです」

―群馬経済の足元の状況は。

「製造品出荷額の約3割を占める輸送機器を中心に海外の現地生産、現地調達による海外シフトが加速しています。足元の円高修正や株高を反映し、県内で盛んな自動車産業を中心に業績拡大を期待する声も聞こえ始めました。シェールガス革命や環太平洋連携協定（ＴＰＰ）など産業界の動向に大きな影響を及ぼす可能性があるテーマは多く、動向を注視しながら商機を取り込む必要があります。このほか中国の金融不安問題なども起きていますが、一喜一憂せずに愚直にモノづくりに励むことが欠かせません」

―自社の事業を通して海外の動向をどう分析していますか。

「12年に合弁事業で進出したインドは10―20年先を見すえた投資です。足元ではインフラ整備が追いついていません。一方、90年代に進出したタイは少しずつ事業環境が整い、車や住宅向けが好調でアジアへの輸出基地として発展しています」

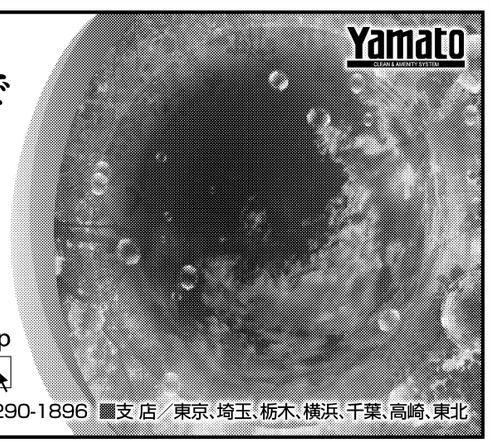
―３Ｄ（３次元）プリンターを活用した新規事業の育成にも熱心です。

「車関連の鋳物用金型の試作などでニーズがあり、コスト低減に貢献できると考えます。３Ｄの絵を印刷するような感覚で、型を簡単に造形できるよう技術開発を急いでいます」

―一方、国内拠点の位置づけはどう変わりますか。

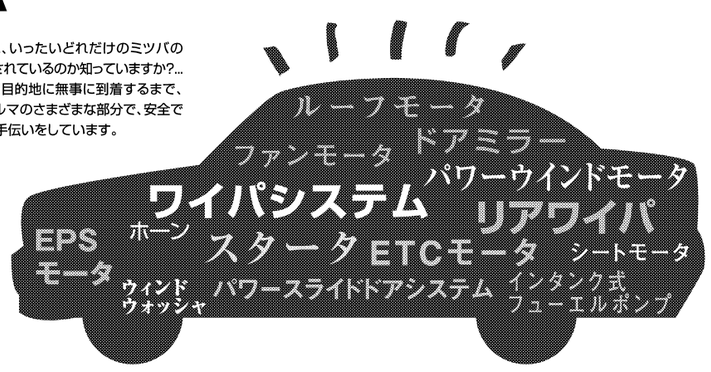
「需要がある高付加価値品の少量生産が鍵を握ります。例えば当社のカイノールはフェノール樹脂を高機能な繊維にした商品です。国内市場を見すえて生産体制を確立する一方で、取引先との共同研究を進めていきたいです。12年には三菱自動車と新神戸電機と共同で植物由来の自動車部品を開発しました。普及に時間はかかりますが、方向性は間違っていません。当社に限らず、世界で戦える日本発の技術開発こそ産業人として進む道ではないでしょうか」

先進の省エネ・環境テクノロジーで
社会に貢献します。



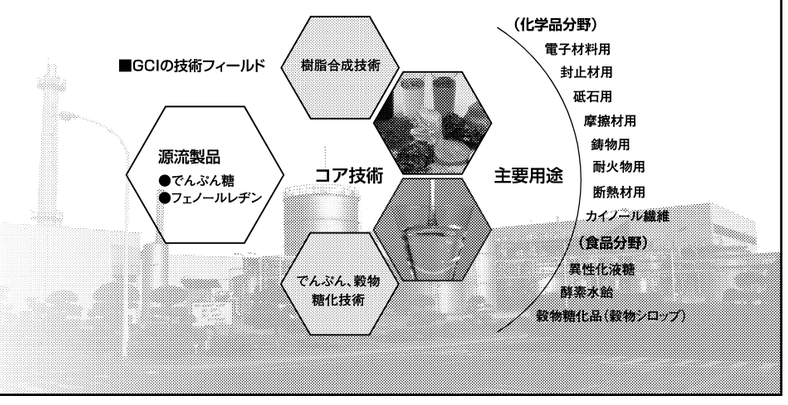
株式会社ヤマト　http://www.yamato-se.co.jp　省エネ ヤマト　検索
■本社／群馬県前橋市古市町 118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896　■支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

MITSUBA
1台のクルマの中に、いったいどれだけのミツバのテクノロジーが搭載されているのか知っていますか?…エンジンの始動から目的地に無事に到着するまで、ミツバの製品は、クルマのさまざまな部分で、安全で快適なドライブのお手伝いをしています。



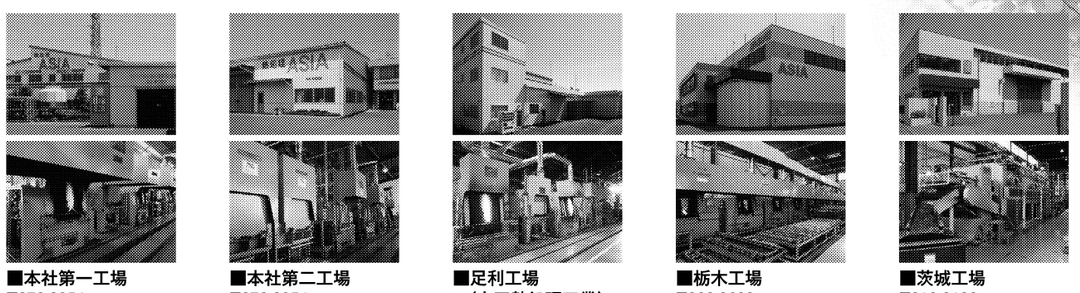
1台のクルマ、そこにはたくさんのミツバの技術が生きています。
きっと、あなたのクルマにも ――
株式会社ミツバ
本　社／群馬県桐生市広沢町1-2681 〒376-8555
TEL.(0277)52-0111(代)　http://www.mitsuba.co.jp

化学のココロ。
GCI
GUN EI Chemical Industry



群栄化学工業株式会社
〒370-0032　群馬県高崎市宿大類町700番地
TEL(027)353-1818(代表)
www.gunei-chemical.co.jp

北関東を代表する総合熱処理メーカー　アジア熱処理技研
群馬　栃木　茨城
きれいな工場から生まれる信頼の品質



■本社第一工場
〒372-0854
群馬県伊勢崎市飯島町540-2
TEL.0270-32-6321
FAX.0270-32-7607

■本社第二工場
〒372-0854
群馬県伊勢崎市飯島町540-18
TEL.0270-32-7100
FAX.0270-32-7102

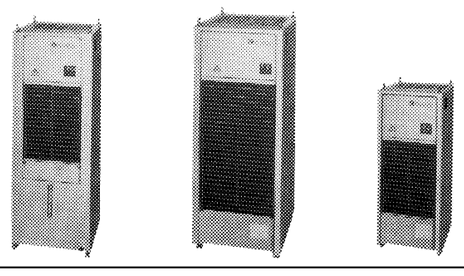
■足利工場
（吉田熱処理工業）
〒326-0021
栃木県足利市山川町90-8
TEL.0284-41-7849

■栃木工場
〒322-0603
栃木県栃木市西方町本郷621-1
TEL.0282-92-8818
FAX.0282-92-8817

■茨城工場
〒319-0102
茨城県小美玉市西郷地60-1
TEL.0299-48-3020
FAX.0299-48-3045

《加工の種類》※浸炭 ※調質（焼入・焼戻し）※軟窒化 ※ホモ処理 ※焼準 ※焼鈍 ※各種真空処理 ※高周波焼入 ※曲がり矯正 ※ショットブラスト ※バレル研磨
・熱処理技能士　41名　・IT化による確かな物流・生産・品質管理
アジア熱処理技研株式会社

油温自動調整機
OIL MATIC
工作機械の高精度化、高速化、高能率化を推進する上で油温制御が重要なきめ手となります。豊富なシリーズから最も適した機種をご選定下さい。
時代は高速、高精度



■ＫＴＣシリーズ　潤滑油、作動油用
冷却能力：1000～14000kcal/H
■ＫＴＶシリーズ　潤滑油、作動油、切、研削油、水用
冷却能力：1000～7500kcal/H
■高精度油温制御装置
±0.1～±0.05℃

KANTO SEIKI
関東精機株式会社
本社・営業／〒371-0854・群馬県前橋市大渡町2―1―10
TEL:027(251)2121(代)　FAX:027(251)0924
江田工場／〒371-0836・群馬県前橋市江田町456
TEL:027(254)4544(代)　FAX:027(252)1519
ＵＲＬ：http://www.kantoseiki.co.jp/